

外国人集住都市会議 こまき 2023



特集 活力ある支え合いの 多文化共生社会の実現に向けて

▲左から豊田市副市長、豊橋市長、浜松市長、飯田市長、小牧市長、上田市市長、大泉町長、伊勢崎市長

1月18日、本市が今年度の座長都市として『外国人集住都市会議 こまき 2023』を開催しました。この外国人集住都市会議は、外国人住民が多く暮らす自治体が会員都市となり、地域の多文化共生を推進するとともに、自治体単独では解決が困難な課題について、国等へ提言を行う活動をしています。

今回の特集では、外国人集住都市会議の内容を振り返るとともに、本市の多文化共生の実現に向けた取組を紹介していきます。

問合せ 多文化共生推進室 (☎39 - 6527)

小牧市で『外国人集住都市会議 こまき 2023』を開催

1月18日、名鉄小牧ホテルで、ブラジル、ペルー、フィリピン領事館や国際機関等の代表者、国会議員等を来賓に迎え、『外国人集住都市会議 こまき 2023』を開催しました。

会議当日は、全11会員都市の内、浜松市、鈴鹿市、豊田市など9都市の首長等と出入国在留管理庁、文部科学省、厚生労働省など6省庁の関係者が登壇し、人口減少社会における多文化共生の必要性について、議論しました。

外国人住民に関するさまざまな課題を議論

●基調講演 「人口減少社会の状況」をテーマに、これからの時代は取捨選択の時代が変わっていくことや、労働力不足の深刻化、今の若い世代は、人口減少を前提とした社会で生きていくことなどについて講話があり、次の世代のために何をすべきか、何ができるのか考える必要性にも言及されました。

に対する日本語教育の充実と就労環境の整備について議論が行われました。

日本語教育では、企業内日本語教育を推進するための補助金制度の創設や日本語教師を派遣するための仕組みづくり、また、外国人児童生徒の増加に伴う日本語指導体制の充実などが議論されました。

就労環境では、意欲的にキャリア形成を重ねる外国人労働者に就労制限のない在留資格を認めるなど、外国人材の長期就労、定着につながる制度の構築などが議論されました。

●セッション2 多文化共生社会を実現するための推進方法や基盤整備について議論が行われました。

自治体が地域の実情に応じた実施する多文化共生事業に対する国の財政措置や多文化共生の基本理念を明らかにする「基本法」の制定、共生社会の司令塔となる「多文化共生庁」の設置などについて、議論が行われました。

●セッション1

外国人住民

小牧市の取組 その1

日本語教室の開催

市国際交流協会（KIA）において、外国人を対象に、日本語教室を開講しています。

日本語に不慣れな外国人市民が多く参加しており、年間で3期、1期当たり12回程度、各期とも日本語のレベルごとに分けた9クラスを開設し、外国人市民が通いやすい日曜日に開講しています。



外国人相談窓口

市役所の外国人相談窓口に通訳相談員を配置し、ポルトガル語、スペイン語、英語、ベトナム語による相談に対応しています。

また、タブレット端末による遠隔通訳サービスの導入や名古屋出入国在留管理局職員による在留相談（毎月1回開催）など、外国人市民が困りごとを相談できるように努めています。



災害時外国人支援ボランティア

大規模な災害が発生した時に避難所などで黄色いバンダナを目印に外国人の方を支援する災害時外国人支援ボランティアの登録・育成に取り組んでいます。

現在、約60の方が登録しており、約半数は、日本語が話せる外国人市民です。令和5年度からは、小学校区単位の地域の防災訓練に一部参加しています。



外国人集住都市会議 こまき 2023



● **小牧市長の提言** 労働力不足が加速度的に進行する中、外国人材の受入れ・共生は、フェーズ（段階）が変わってきている。国が主体となつて国民的な議論を行い、外国人材の受入れに関する中長期的な展望、多文化共生社会のビジョンを明確にし、国としての方向性を広く国民に説明する必要があるといった、根幹的で重要な提言をしました。

● 小牧市長の提言

労働力不足

こまき宣言
こまき会議の最後には、人口減少と少子高齢化が同時進行する日本の将来、子どもたちの未来を考え、今回の会議のテーマでもある「誰もが夢や希望を持って暮らせる支え合いの多文化共生社会」を目指し、力強く推進していくことを宣言する「こまき宣言」を読み上げ、閉会しました。

外国人集住都市会議をもっと知りたい方へ！



▲ 詳しくは
ホームページ



▲ 当日の様子を
動画でチェック



▲ こまき宣言
はこちら

小牧市の取組 その2

市長と語るタウンミーティング

本市の人口は、令和6年1月1日現在で149,715人、その内、外国人人口は、10,866人であり、約14人に1人が外国人市民という全国でも有数の外国人集住都市となっています。

今回のタウンミーティングは、1月18日に開催された「外国人集住都市会議こまき2023」のプレ事業として、1月7日に日本で暮らす外国人市民の方(4人)とさまざまな話題で意見交換を行いました。



◀詳しくは
ホームページ



◀当日の様子

タウンミーティングで出た意見

「ごみ出し」について

- ・言葉もルールもわからなかったもので、日本に来たばかりの頃は、ごみ出しが一番難しかった。
- ・今は翻訳した説明書が市役所でもらえるので、助かっている。
- ・分別が多く、家にごみを溜めておくのが大変。資源ごみなどは毎日捨てることのできる場所があると良い。



「通訳・翻訳」について

- ・市役所や学校には通訳がいるので助かっている。
- ・病院は専門の言葉が多く理解ができないこともある。病院にも通訳がいると良い。
- ・携帯電話の翻訳を使うこともあるが、完璧に翻訳されるわけではなく、困ることもある。

「差別」について

- ・あえて方言や早口、難しい言葉を使うなど嫌がらせを受けたこともあった。
- ・優しい方は、わかりやすく理解できるようにゆっくり話してくれて、ものすごく感謝している。

「日本語理解」について

- ・日本語は、ひらがなとカタカナから始めるが、漢字が混じってくると、急に難しくなる。
- ・今はインターネットがあり日本語を勉強しなくても暮らしていけるので、日本語を覚えようとする外国人が少なくなったかも。
- ・日本語能力試験が小牧市で受験できたり、受験料の補助が出ると良い。

少しの歩み寄り、大きな一歩に
外国人の受入れに不安や抵抗を感じる日本人も多く、また、日常生活の中で外国人と接する機会も少ないことから多文化共生に対する関心は低い状況にあります。

しかしながら、人口減少社会に突入した日本においては、労働力不足を背景に外国人材の必要性が一層高まっています。

同じ地域に暮らす外国人と日本人が仲良く、お互いに支え合って快適に暮らせるように努力するというのが私の基本的な考え方ですが、外国人の方は、日本で生活する上で、最低限の日本語を勉強することが必要だと思っています。また、日本人の方は、ゆっくり優しく話すことを心掛けることが必要で、お互いに、ほんの少し歩み寄ることが、多文化共生の大きな前進につながっていくと思います。

今後も本市の将来を考え、外国人集住都市会議の会員都市と連携して多様性を都市の活力とする支え合いの地域づくりに取り組んでいきます。

